

b. 建設機械等のパワーレベルの設定

予測時点における騒音源のパワーレベルは表 5.5.29(1)、(2)に示すとおりである。

予測時点に稼働する建設機械等のパワーレベルは、その種類、規格に基づき、既存の文献により設定した。なお、予測にあたっては、工事最盛期に稼働する建設機械等（騒音源）がすべて同時稼働するものとした。

表 5.5.29(1) 騒音源のパワーレベル（会場予定地）

（工事着工後 17 か月目）

騒音源	規格	台数	パワーレベル (デシベル)
発電機	60kVA	138	102
発電機	100kVA	41	102
発電機	220kVA	9	102
発電機	400kVA	1	102
タイヤローラ	8～20t	5	104
ブルドーザ	15t 級	10	103
バックホウ	0.7m ³	40	101
バックホウ	0.45m ³	35	101
バックホウ	0.25m ³	7	101
鋼管回転圧入機	50～55t	2	104
ポンプ車	90～110m ³ /h	11	108
生コン車	4.4m ³	44	107
ラフタークレーン	25t	108	108
ラフタークレーン	60t	37	108

出典：「ASJ CN-Model 2007」（（社）日本音響学会）

「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック第3版」（（社）日本建設機械化協会、平成13年）

表 5.5.29(2) 騒音源のパワーレベル（（仮称）舞洲駐車場予定地）

（工事着工後 19 か月目）

騒音源	規格	台数	パワーレベル (デシベル)
ダンプトラック	10t	30	102
アスファルトフィニッシャ	2.3~6.0m	1	108
振動ローラ	11~12t 級	3	107
タイヤローラ	13t	1	98
タイヤローラ	8~20t	9	104
バックホウ	1.4m ³	5	104
バックホウ	0.45m ³	7	101
ブルドーザ	16t 級	3	108
ブルドーザ	20t 級	5	108
ブルドーザ	32t 級	5	108
ロードローラ	10t	10	93

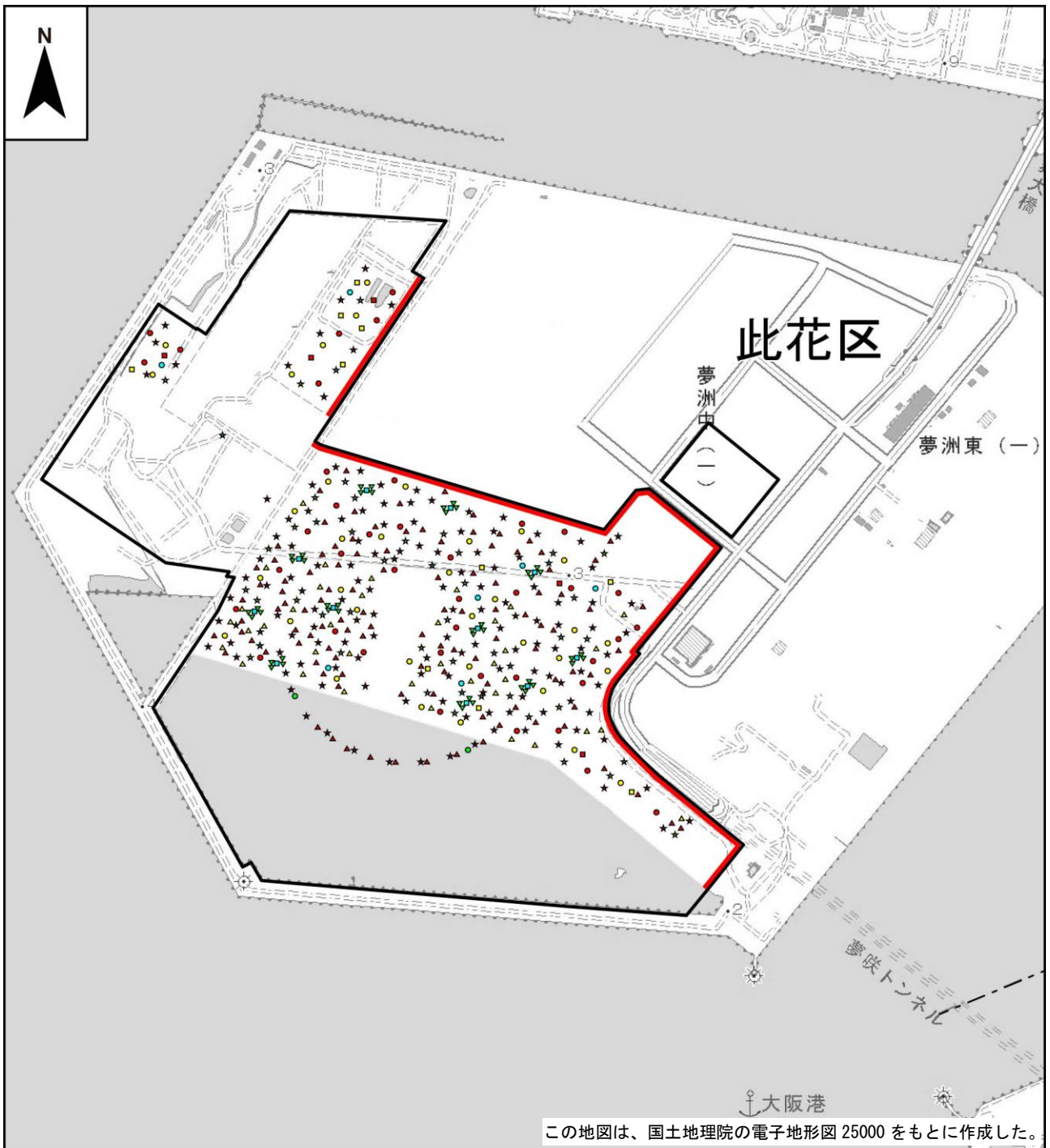
出典：「ASJ CN-Model 2007」（（社）日本音響学会）

「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック第3版」（（社）日本建設機械化協会、平成13年）

c. 騒音源及び障壁の配置

騒音源となる建設機械等の配置及び障壁の位置は、図 5.5.14(1)、(2)に示すとおりである。

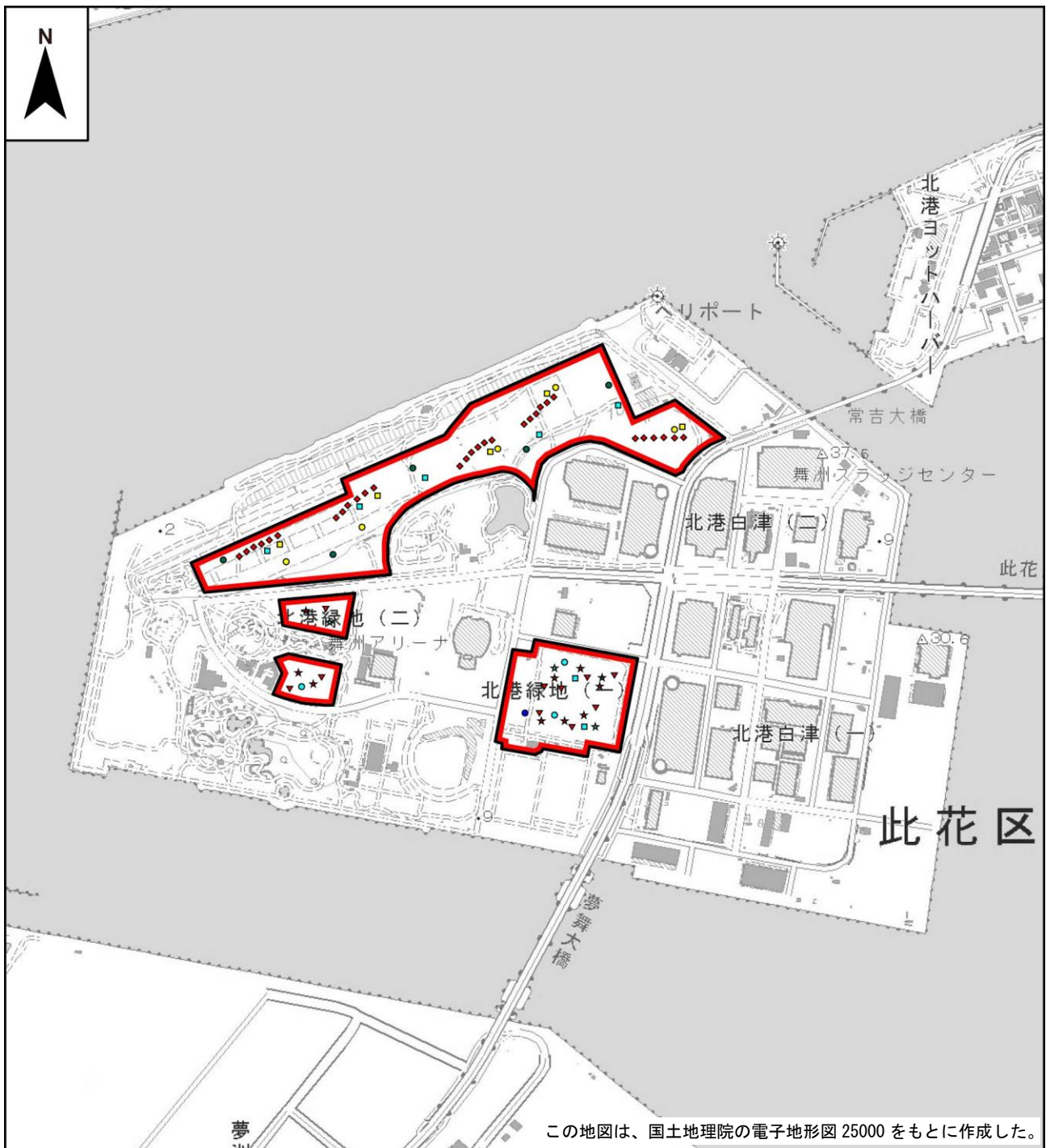
建設機械等は工事計画に基づき配置し、障壁の高さは 1.8m とした。



凡例

- | | | | | | |
|--|--------------|--|------------------|--|----------------|
| | 会場予定地 | | タイヤローラー (8~20t) | | 生コン車 |
| | 市区界 | | ブルドーザー (15t級) | | ラフタークレーン (25t) |
| | 障壁 | | バックホウ (0.7m³) | | ラフタークレーン (60t) |
| | 発電機 (60KVA) | | バックホウ (0.45m³) | | |
| | 発電機 (100KVA) | | バックホウ (0.25m³) | | |
| | 発電機 (220KVA) | | 鋼管回転圧入機 (50~55t) | | |
| | 発電機 (400KVA) | | ポンプ車 | | |
- 1:15,000
0 0.15 0.3 0.6 km

図 5.5.14(1) 騒音源・障壁配置図 (会場予定地)



凡例

- | | | | |
|--|------------------|--|-----------------------------|
| | (仮称) 舞洲駐車場予定地 | | バックホウ (1.4m ³) |
| | 障壁 | | バックホウ (0.45m ³) |
| | ダンプトラック (10t) | | ブルドーザー (16t級) |
| | アスファルトフィニッシャー | | ブルドーザー (20t級) |
| | 振動ローラー (11~12t級) | | ブルドーザー (30t級) |
| | タイヤローラー (13t) | | ロードローラー (10t) |
| | タイヤローラー (8~20t) | | |

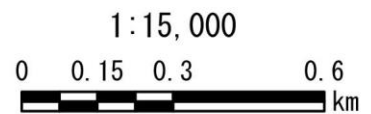


図 5.5.14(2) 騒音源・障壁配置図 ((仮称) 舞洲駐車場予定地)